



平成 30 年度 教育研究発表会のご案内

* 研究主題 *

「学ぶこと」と 「生きること」を つなぐ 「ものがたり」

— 主体×主体の関係が生み出す
深い学びをめざして—



平成 30 年 6 月 8 日(金)
8 時 30 分 ~ 16 時 35 分

香川大学教育学部附属坂出中学校

* 後 援 *

香川県教育委員会 坂出市教育委員会 宇多津町教育委員会
綾川町教育委員会 香川県中学校長会 坂出市中学校長会
綾歌郡中学校長会 香川県中学校教育研究会 坂出・綾歌中学校教育研究会

「ものがたり」でつながる わたし、学び、わたしの未来

—— 「主体的・対話的で深い学び」への道標 ——

講 演

15:25 ~ 16:35



演 題

「ものがたり」による学びの変革と これからの学校教育 — 情報の伝達から意味の形成支援へ —

講 師

上智大学総合人間科学部
教授 奈須 正裕



プロフィール

上智大学総合人間科学部教授。1961 年徳島県生まれ。徳島大学教育学部卒、東京大学大学院修了、博士(教育学)。国立教育研究所室長、立教大学教授等を経て現職。専門は教育心理学、教育方法学。中央教育審議会教育課程部会委員。主な著書に『「資質・能力」と学びのメカニズム』(東洋館出版社)、『知識基盤社会を生き抜く子どもを育てる』(ぎょうせい)など。

本校の研究に寄せて

本来、学びとは個人的で情緒的な「意味」の創出に他ならないが、近代学校は国民形成のため、万人に共通な「正解」の教授に終止してきた。「ものがたり」を主題とする附属坂出中の研究は、150 年を一気に遡り、学びの質と学校の任務の再定義を目指す企てである。

申し込み方法

参加を希望される方は、申込書(別紙)に必要事項をご記入の上、5 月 24 日(木)までに郵送またはファックスにてお申し込みください。また、本校ホームページから申し込むこともできます。

■備 考

資料代: 3000 円

昼 食: 当日、お弁当を販売します。

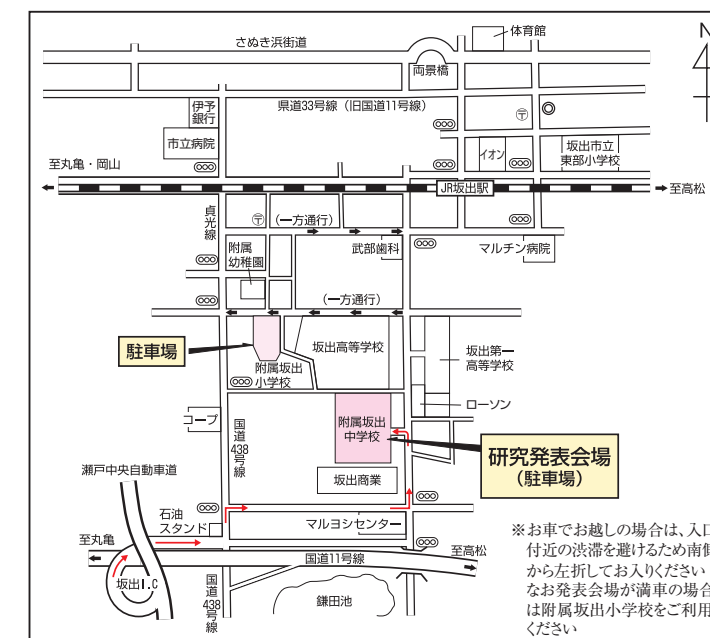
■アクセス

鉄 道: JR坂出駅より徒歩 5 分

自動車: 坂出インターより 5 分

飛行機: 高松空港から車で 40 分

※車でお越しの際は、東側よりお入りください。



* お問い合わせ *

香川大学教育学部附属坂出中学校

〒762-0037 香川県坂出市青葉町 1 番 7 号
TEL:0877-46-2695 FAX:0877-46-4428

<http://www.sch.ed.kagawa-u.ac.jp/sakachu@ed.kagawa-u.ac.jp>

ごあいさつ



新緑の候、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

本校では、『学ぶこと』と『生きること』をつなぐ『ものがたり』というテーマについて、全教員一丸となって取り組んでいます。そして、「ものがたり」のもつ力を活かした授業によって、生涯学び続けようとする強い学習意欲をもった生徒の育成を目指し、実践を続けてきました。

本年度はサブタイトルを「主体×主体の関係が生み出す深い学びをめざして」と掲げ、「深い学びを生み出す問いは適切であったか？」など、「問い」に着目して、課題を各教科それぞれの切り口で掘り下げ、主体的な学び、対話的な学び、深い学びが具現化しているか、「応じる」ことができる生徒は育成されているかなどを、実践を通じて検討しています。

つきましては、標記の研究発表会を開催いたしますので、ご多用中とは存じますが、是非、皆様方のご参加とご指導を賜りたく、ここにご案内申し上げます。

香川大学教育学部附属坂出中学校
校長 高木 由美子

「ものがたり」とは・・・

他者との語り合いの中で、
学んだことを過去の経験と関係づけ、
学ぶことの意味や価値を実感し、
未来につながる自己のよりよい生き方を見いだしていくこと

「主体×主体の関係」とは・・・

自らの意志に基づいて「人・もの・こと」にかかわろうとする学習者同士が、対等な立場で、他者を受容しながら聴き合い、語り合う関係

「ものがたり」の授業における深い学びとは・・・

教科等の本質を踏まえた学びと、
その過程で生まれる学んだことの意味や価値の実感



「ものがたり」の授業がもつ3つの力

- 1 実感を伴う、深い理解が得られる
- 2 自分事の学びにできる
- 3 語り合い、振り返ることで、新たな意味や価値に気づく



今期の2つの重点

- ・深い学びを生み出すための問いのあり方
- ・聴き手を育てる教師のかかわり方



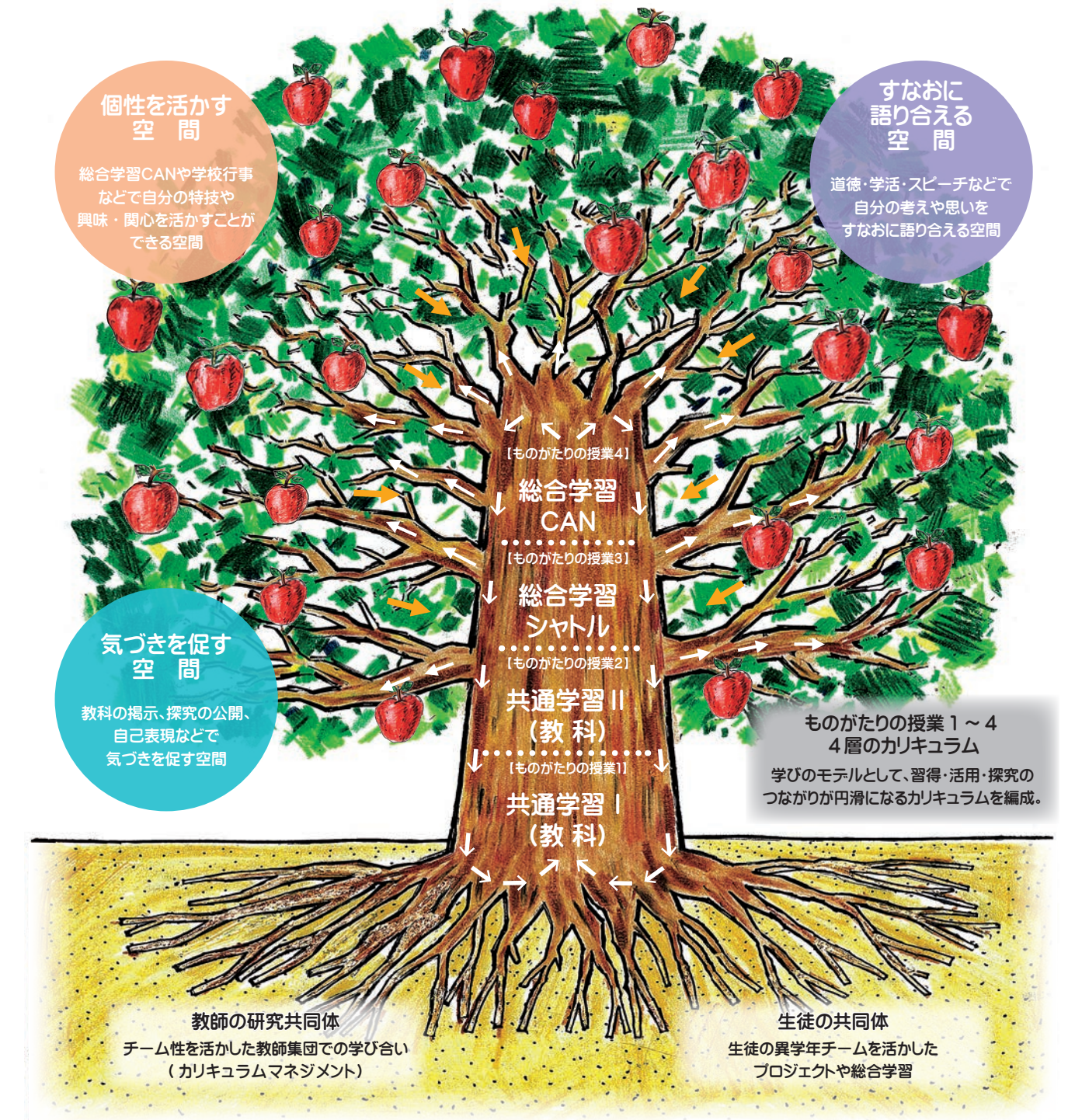
「ものがたり」の授業で 学ぶ意欲の向上と自己形成をはかる

教師の研究共同体と生徒の共同体を土台に練り上げられた「ものがたり」の授業による4層のカリキュラムの幹が、個の学びを实らせていく。4層のカリキュラムは決して一

方通行ではなく、幹をめぐる水や養分のように往還し、互いに影響し合っている。

さらに、学びの実は、木に囲まれた語り合いや気づきのある安心した空間の中で、成熟していく。

このような営みを繰り返す中で、その実にしかない形や色や味があるように、その個にしかない学びの意味や価値の実感が生まれ、独自の良さが互いに影響し合い、それぞれの「ものがたり」がつけられる。



「ものがたり」をつくる4層カリキュラム

共通学習Ⅰ (教師主導型：同学年)
教科の基礎・基本の習得に重点を置いた学習。
共通学習Ⅱ (生徒主体型：同学年)
教科の基礎・基本を活用する問題解決的な学習。

総合学習シャトル (教師主導型：異学年)
探究スキルの習得の場で、共通学習における活用と総合学習 CAN における探究とをつなぐ学習。
総合学習 CAN (生徒主体型：異学年)
CAN とは、Cluster (クラスター)、Action Learning (アクション・ラーニング)、Narrative Approach (ナ

ラティブ・アプローチ) の頭文字をとったもの。総合的な学習の時間を使って、正統的周辺参加論に基づき、1～3年生がそれぞれ1名ずつ集まってクラスターを組み、生活の中から課題を設定し、他者とかかわりながら探究することで、自らの可能性を広げていく生徒主体の開かれた学習。

国語

＜研究テーマ＞

言語による認識の力をつけ、豊かな言語文化を育む国語教室の創造
—ものがたりをつむぐ「語り直し」を生み出す指導・支援のあり方—

■公開授業Ⅱ

授業者：田村 恭子

1年「言葉の力（「うつくしいもの」八木重吉）」



詩は作者が選び抜いた言葉で作られています。それらの言葉が織りなす表現には、深い意味が込められています。言葉を手がかりに、一人一人がその意味を探っていくことで「ものがたり」が生まれ、言葉の力を実感する、そんな授業にしていきたいと思ひます。

■公開授業Ⅲ

授業者：大西 小百合

3年『『百科事典少女』どう評価するか（『百科事典少女』）



文章表現から登場人物の心情や行動の意味を想像し、主題を追究する中で、言葉のもつ価値について自己の認識を深めていきます。語り直しの中で、親子の愛情など自分の価値観を見つめ直し、どの生徒にも「ものがたり」が生まれる授業を構想します。

■研究協議会

＜指導者＞

香川県教育委員会事務局義務教育課
主任指導主事
土岐 浩司

香川大学教育学部
教授
佐藤 明宏

社会

＜研究テーマ＞

これからの社会のあり方を自ら考える民主社会の形成者の育成をめざした社会科学習のあり方
—「今・ここ」を相対化し、再構成される「社会的自己」の「ものがたり」を通して—

■公開授業Ⅱ

授業者：山城 貴彦

2年「附坂中版 災害に強いまちづくり計画」



地域防災力の向上といった現代的課題に対して、社会科地理が果たす役割とは何か？集めたデータをもとに、ハザードマップや避難所について語り合いながら、防災や身の回りの景観を新たな見方や考え方でとらえ直します。

■公開授業Ⅲ

授業者：大和田 俊

1年『『日本』誕生の物語』



白村江敗戦後の倭国の選択について語り合うことを通して、その選択が古代国家「日本」成立に与えた影響を考えていきます。さらに、語り合いを通した新たな気づきから東アジアの独立国である現代日本を捉え直すことで歴史を学ぶ意味や価値を見出していきます。

■研究協議会

＜指導者＞

香川県教育委員会事務局義務教育課
主任指導主事
三野 健

香川大学教育学部
教授
伊藤 裕康

数学

＜研究テーマ＞

数学化のよさを実感できる生徒の育成
—数学の本質に気づく「問い」と生徒の「振り返り」を通して—

■公開授業Ⅰ

授業者：山田 真也

3年「円周角」



「円がかくれているのでは」「どのような円についても言えるのかな」と、等しい角の頂点の軌跡が円周になることや円の不思議な性質について生徒たちが発見します。対話の中で生まれた生徒の疑問を取り上げていくことで、新たなものがたりをつむいでいきます。

■公開授業Ⅲ

授業者：渡辺 宏司

1年「資料の活用」



「なぜ、香川県は糖尿病ワースト県なのか」の問いに始まり、「原因は本当にうどんなのか」「うどん以外の原因はあるのか」と、新たな問いが生徒から生まれます。他者との対話の中で、「本当に正しいのか」と批判的な考察をしながら、自分たちの最適解を探っていきます。

■研究協議会

＜指導者＞

香川県教育委員会事務局義務教育課
主任指導主事
清水 一郎

香川大学教育学部
教授
佐竹 郁夫

理科

＜研究テーマ＞

科学的に対話し、探究する中で自然をとらえ直す生徒の育成
—科学する共同体の中でつむがれる「ものがたり」を通して—

■公開授業Ⅰ

授業者：山下 慎平

2年「もしも磁界がみえたなら」



磁石や電流の周りに広がる磁界を観察したり、磁界にまつわる科学者たちの発見の過程をたどったりすることを通して、何もないと思っていた空間に広がる磁界に気づき、今生きている空間を新たな視点でとらえ直します。

■公開授業Ⅲ

授業者：鷺辺 章宏

1年「讃岐の火成岩」



香川県の山の形はなぜ独特なのか。山から持ってきた岩石を偏光顕微鏡で観察したり、実験で性質の違いを調べたりすることを通して、岩石の性質の違いや誕生の歴史を解明し、岩石や香川の風景を新たな見方、考え方でとらえ直します。

■研究協議会

＜指導者＞

香川県教育委員会事務局義務教育課
主任指導主事
若林 教裕

香川大学教育学部
教授
笠 潤平

保健体育

＜研究テーマ＞

運動・スポーツの面白さに浸り、豊かなスポーツライフの実現へつなぐ保健体育学習
—運動・スポーツの本質を問い続ける共同体づくり—

■公開授業Ⅰ

授業者：徳永 貴仁

1年「器械運動—マット運動—」



中学校のマット運動の授業は、小学校とどのように接続し、発展させれば良いのか？側方倒立回転や倒立前転など、取り組む技が異なるだけだろうか？マット運動が苦手な生徒は、本当の面白さを感じているのか？面白さを伝えるために必要な手立てとは・・・

■公開授業Ⅲ

授業者：石川 敦子

2年「球技—バレーボール—」



「バレーボールの本当の面白さとは？」・・・『する・みる・支える・知る』の様々な視点から考え、ゲームのデータを分析したり、作戦を互いに語り合い対話したりする中で、自分たちだけの答えを導き出していきます。

■研究協議会

＜指導者＞

香川県教育委員会事務局保健体育課
課長補佐
高木 成明

香川大学教育学部
准教授
米村 耕平

技術・家庭

＜研究テーマ＞

よりよい生活を未来へつなぐ実践力を育む技術・家庭科教育
—実生活を見つめ、聴き合い、語り合うことで生まれる「ものがたり」を通して—

■公開授業Ⅲ

授業者：渡邊 広規

2年「生活の中での計測・制御」



教材を通して学んだプログラムの基本操作をいかし、今度は自分たちの生活の中での活用のしかたを考え、実際にプログラミングしていきます。活用方法を考えると同時に、自分たちの計測・制御に対する見方・考え方の変容を実感していきます。

■公開授業Ⅱ

授業者：池下 香

2年「和食を未来へつなぐ」



「本当の和食とは？」ユネスコ無形文化遺産登録やSushiの世界的な普及などで注目を集める和食。自分たちが和食を継承するためにできることは？聴き合い、語り合う中で、和食を新たな見方・考え方でとらえ直します。

■研究協議会

＜指導者＞

丸亀市立南中学校
教頭
氏家 徹也

綾川町立昭和小学校
校長
濱崎 良重

香川大学教育学部
教授
宮崎 英一

香川大学教育学部
准教授
畦 五月

外国語

＜研究テーマ＞

コミュニケーションへの意欲を高める英語授業の創造
—「ものがたり」から生まれる主体的な言語活動を通して—

■公開授業Ⅱ

授業者：伊賀 梨恵

3年「日本文化を紹介しよう」



自分が伝えたいことを相手に伝えるためには工夫が必要で、相手の視点に立ってどのように伝えるか考える必要があります。英語で日本文化を紹介することを通して、相手意識をとらえ直すとともに、コミュニケーションに対する見方・考え方を深めていきます。

■公開授業Ⅲ

授業者：明田 典浩

3年「Program2 Volcanoes in Japan」～附坂中総合学習CANをどのように伝えるのか～



附属坂出中オリジナルの総合学習CAN。それを外国の人に伝えようとしたら意外と難しいものです。何をどのように伝えようかと試行錯誤する中で、見方・考え方を働かせ、英語や表現方法について語り合うことでコミュニケーションへの意欲を高めます。

■研究協議会

＜指導者＞

香川県教育委員会事務局義務教育課
主任指導主事
植田 浩之

元香川大学教育学部
教授
竹中 龍範

音楽

＜研究テーマ＞

音楽のよさや美しさを味わい、音楽とのかかわりを深める学習のあり方
—音楽観の変容からつむがれる「ものがたり」を通して—

■公開授業Ⅲ

授業者：堀田 真央

2年「交響曲第5番作品67第1楽章を味わう」



一度聴いただけでも印象が残る楽曲の秘密とは何か。作曲者の状況や時代背景もふまえ、作曲の工夫の意味について見だし、語り合っていきます。それを通して、自己の音楽に対する価値観を見つめ直し、音楽とのかかわりを深めていきます。

■研究協議会

＜指導者＞

坂出市教育委員会学校教育課
主任指導主事
可児 智恵子

香川大学教育学部
教授
岡田 知也

美術

＜研究テーマ＞

創造活動の喜びを見出す美術の学習
—思いを語り合い、聴き合うことで発想を広げ、感じ方を深める—

■公開授業Ⅲ

授業者：渡邊 洋往

3年「オリンピックのエンブレムに必要なものは？」



2020東京オリンピックのエンブレム、実は、たくさん候補作品がありました。4つの最終候補からなぜ、1つが選ばれたのか。伝えるためのデザインに必要なものは何かを考えます。身の周りのデザインに対する「ものがたり」が生まれる授業をめざします。

■研究協議会

＜指導者＞

善通寺市立西中学校
教頭
河内 直人

香川大学教育学部
准教授
吉川 暢子



時 程		8:30	9:00	9:30	10:00	10:15	11:05	11:20	12:10		
受 付	全 体 会	全 体 提 案	移 動 ・ 休 憩	公開授業Ⅰ	移 動 ・ 休 憩	公開授業Ⅱ	昼 食 ・ 休 憩				
				CANの発表		CANの発表					
				13:10		14:00 14:10		15:10 15:25		16:35	
				公開授業Ⅲ	移 動 ・ 休 憩	教科研究協議会		移 動 ・ 休 憩	講 演 「ものがたり」による学びの 変革とこれからの学校教育 —情報の伝達から意味の形成支援へ—		
				学校保健研究協議会							